

## 日本キリスト教会 大阪北教会

2018年5月20日 聖霊降臨節・ペンテコステ礼拝説教 牧師 森田幸男

### 聖書 使徒言行録2章1節～13節

02:01 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、02:02 突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。02:03 そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。02:04 すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。02:05 さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、02:06 この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。02:07 人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。02:08 どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。02:09 わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、02:10 フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、02:11 ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」02:12 人々は皆驚き、とまどい、「いったい、これはどういうことなのか」と互いに言った。02:13 しかし、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、あざける者もいた。

### 説教『御霊よ降りて 奇しき御業を 現わし給え!』+

◆今日は、「ペンテコステ・聖霊降臨節」の礼拝を守っておりますが、「ペンテコステ」という表現は「50日目」という意味のギリシャ語で、今日の聖書において「五旬祭」と言われているものです。ユダヤ教の三大祭の一つで、元来は「収穫感謝祭」だったものに、「十戒授与」の記念祭という意味が加えられたものであります。そして、今日の記事は、原始キリスト教会の誕生の様子を記しており、キリスト教では「聖霊降臨節」と称しています。クリスマス(降誕節)と復活節(イースター)とを合わせて、キリスト教の三大節(祭)であります。

◆ところで今日の箇所は、この使徒言行録と同一著者によるルカによる福音書の末尾に、復活の主・イエス様が弟子たちに、「24:49 わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの

力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい」と命じられて後、天に昇られたことが記されています。そして今日の箇所は、その「高い所からの力」に弟子達が覆われた出来事が記されているのです。この「高い所からの力に覆われる」出来事が、今日の箇所では「炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。02:04 すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した」と表現されております。これが「聖霊降臨」と言われている出来事であり、弟子たちの心に火が付いたのです。そして「キリスト教」が生まれたのです。

◆当時、イスラエルの民・ユダヤ人は、世界中に散在して住んでおりました。既に故国に帰り、エルサレムに住んでいる人々もおりました。今日の箇所に、十を越える国々からの帰還者で既にエルサレムに住んでいる人々や、「五旬祭」を守るために上京した人々も多く、エルサレムは、それこそ世界中からのユダヤ人でごった返していました。「メソポタミア」や「エジプト」「ローマ」等々の地名・国名が記されています。そしてこれらの人々の大方のルーツは、ユダヤ人ではありますが、それぞれが生まれ育った国の言葉しか話すことができません。

◆一方、120人程のキリストの弟子達は、大方がガリラヤ出身です。ガリラヤの方言しか話す事ができません。ところがその弟子たちが、「聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した」のです。世界中のありとあらゆる言葉で、神の偉大な業・キリストの愛の業について証したのです。「人々は皆『彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは』と、驚き、とまどい、『いったい、これはどういうことなのか』と互いに言った」と記されています。言葉が、言語が違えば、話は通じません。その言葉の壁を、聖霊は、神の霊は、克服させたのです。ここに神様の熱情を見ます。一切の壁、隔てを打ち破って、恵みの福音がキリストの弟子達、主の証人たちを通して伝えられたのです。この後14節以下で、ペテロが説教しますが、2章の41節以下で、「ペテロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった」と記されていますが、復活の主イエス・キリストに捕えられ、聖霊に満たされた者の証しは、初代であれ、現代であれ、また何処の国であっても、隔ての壁を破る力があるのであります。

◆ところで、私たちは、この5月6日の日曜日に「教会創立133周年記念礼拝」を行ないました。そして先週5月13日の日曜日には、「母の日・親子合同礼拝」を持ちました。そして今日、聖霊降臨節の礼拝を守っています。このように一つ一つ礼拝を守ってまいりました。そしてそれぞれが独自の内容、意図を持っております。そうなのですが、私は、今日の準備をする中で、これら三つの記念礼拝の中に、ある共通するものがあることに気付きました。これらは、どの一つも、この私たちの祖国・

日本の歴史・伝統・文化に由来するものがないということです。すべてが輸入ものなのです。それで気付いた事というのは、人間は、いつの時代の誰であっても、どの国、どこの国民であっても、「良いものは良いと認める」ということです。そこに一切の壁を超克する“アメージング・グレース”＝「驚くべき恵み」があるならば、いかなる隔ての壁も克服することができるのです。

◆例えば、昨今の例では、医薬品とか化粧品とか、電化製品でも、アジアの近隣諸国から、観光旅行を兼ねて多くの人々が買い出しにやって来ます。良いものが安くて手に入るなら、自国の商品にこだわらないのです。旅費を使ってでも大挙してやってきます。先日、道頓堀・戎橋の北詰にあるドラッグ・ストアに行きましたが、顔を見ただけでは日本人か外国人か、区別が付きませんが、言葉を聞けば外国人と分かります。そして、そのアジア諸国の人々が医薬品や化粧品などを沢山、まとめ買いする姿を見ました。最近の卑近な例ですが、良いものは良いと認める最近の顕著な例です。

◆もう一つ、この三つの行事に共通していることは、「犠牲をいとわない愛」という点です。第1の「教会創立133周年記念礼拝」ですが、わたしたちの大阪北教会を起こされたアレキサンダー宣教師が来日されたのは今から約140年前に、アレキサンダー宣教師が27歳、夫人のエマさんが22歳の新婚早々の時でした。どうしても神の恵みの福音を伝えないではおれない思いに駆られて、故郷、肉親との絆を断って、日本伝道に来られたのです。そしてこの大阪北教会が生まれたのです。25年に及ぶ伝道、奉仕を果たし、ハワイで52歳で召されました。

◆2番目の「母の日・親子合同礼拝」ですが、そこにあるのは「母の愛」です。子供の健康と幸せのためなら母はどんな犠牲も厭わないのです。しかし昨今、母の涙が濁くことはありません。テレビの画面で、世界中のお母さんが泣いています。母の涙は、今や世界・万国共通です。病気や事故や戦争・内戦で犠牲をなつた子のためには、自分が代わって死ねばよかったと犠牲をいとわないのが母なのです。母を泣かせる世の中は間違っています。アメリカで「母の日」のきっかけを作ったアンナ・ジャービス女史は、後年「母の日」廃止運動をしたと伝えられています。それは「母の日」が商業主義に毒されて、本来の意図、願いから逸れて行ったからです。

◆そして、今日の「ペンテコステ・聖霊降臨節の礼拝」です。今日の聖書において、「神の大きな働き」について語っているのは、キリストの弟子達です。彼らは、40日～50日前には、悔恨と恐怖のどん底に落ち込んでいました。彼らが「救い主」と信じて、従ってきたキリストが捕えられ、「国家反逆罪」で十字架で処刑されたからです。その弟子たちが、今、首都エルサレムのど真ん中で、「キリストをさえ犠牲にして惜しまない神の愛」を、声高らかに語っています。そして上でも触れましたが、ペ

テロの話聞いた人々、3000人程が、仲間に加わったのです。これがキリスト教会の誕生の次第です。弟子達は、今や、自分の命を落とすことも厭わないで、神様の大きな働きについて証言しています。彼らは死の試練を克服したのです。神の霊に満たされ、新しい命に甦ったのです。

◆個人的にも、人間には、共通の、絶体絶命の試練があります。罪と死の問題です。しかし、どのような困難、試練であろうとも、如何に天涯孤独の境遇に身を落とそうとも、人は再起し、復活して新しい人生を生きて行くことができるのです。今・ここで「神の大きな働き」を語っているのは、そのような人生の絶体絶命の試練を克服することができた人々です。神様の絶対の愛を経験した人々です。神様の霊・聖霊を、命の息を吹き入れられて、復活・再生した人々です。今、此処で語っているペテロを始めとする人々は、赦され難い罪を赦され、再生・復活させられた人々です。この聖書において証しされているイエス・キリストにおいて示された神の愛は、この世界の全ての人々が、例外なく遭遇するこの「罪と死」の試練を、克服させてくれる愛の力です。犠牲の愛です。この愛だけが、全ての分け隔て、言葉の壁さえ打ち砕いて、復活、再生させる奇跡の力なのです。

◆自分の身に、この奇跡を経験した人は、それを人々に伝えないではおれなくさせられます。伝えなければならぬというわけではありません。伝えないではおれなくさせられるのです。その思い、願いが極点に達した時、思いが溢れて異言を、外国語を、奇跡の証を、神の言葉を、人は語り出すのです。今日、私たちは伝道の困難、信仰の継承の難しさを覚えています。しかし、これらは人間の頑張りでは何とかなるものではありません。私たちが、信仰を与えられるのは、神様の恵みの奇跡なのです。神様の霊の働き以外ではありません。そして、人間を、その罪と死から解放し、永遠の命を与えて下さることは、神様の不退転の決意、御心であります。今日、此処でこのように、聖霊降臨節の礼拝を捧げている私たちは、ほかの人々に先立って、この幸いに入れていただきました。そのことを心から感謝し、御名をほめたたえつつ、神様の御心が世に実現するために、身を捧げようではありませんか。

◆お祈りいたします。

恵み深い主イエス・キリストの父なる神様、あなたの無比なる御愛を新たに覚え、心から感謝いたします。どうか、わたしたちが先に与っているこの信仰の幸いへと、全ての人々を導いてください。そしてあなたの御心が、この地上に実現いたしますように。そして、全世界のお母さんたちが、悲しみの涙を流さないで済むようにして下さい。また、そのことなるために、私たちが惜しまず身を捧げる者たちとならせて下さい。主イエス様が共にいまし、御霊が私たちに満ちて下さい。この祈り、主イエス様の御名を通し、御前にお捧げいたします。アーメン。